

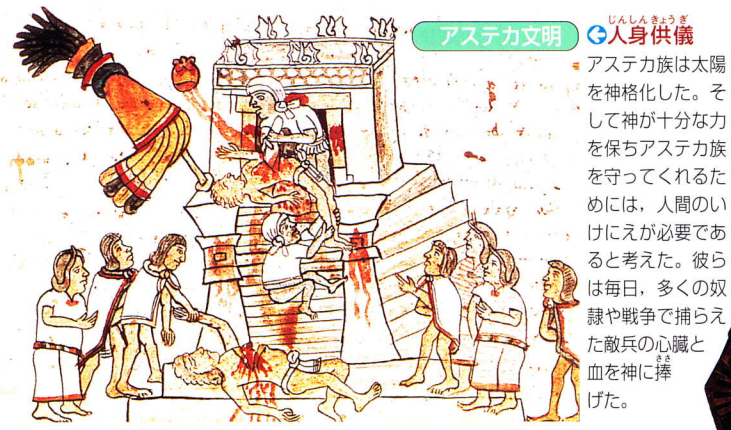
1 古アメリカ文明の変遷

時代区分	年	メキシコ中央高原	メキシコ湾	ユカタン半島	ペルー北海岸	ペルー中央高地	ペルー南海岸	リベリア国境
縄文時代	12000	メソアメリカ文明		アンデス文明				
弥生時代	紀元後1	オルメカ文明		チャビン文化 (ワンタル遺跡)				
古墳時代	200	テオティワカン文明		モチカ文化				ティアワナコ文明
飛鳥時代	400	P7写		古典期マヤ文明				ナスカ文化
奈良時代	600	トルテカ文明		マヤ文明				フリ文明
平安時代	800	アステカ		マヤ文明				インカ帝国
鎌倉時代	1200	アステカ		マヤ文明				インカ帝国
室町時代	1400	アステカ		マヤ文明				インカ帝国
1600	1521	アステカ		マヤ文明				インカ帝国

文明	マヤ文明	アステカ文明	インカ文明
地域	グアテマラ・ユカタン半島	メキシコ～パナマ	エクアドル～チリ
時期	古典期300頃～900頃	14世紀～1521	1201～1533
都市	ティカルが中心(マヤ族) 後期900頃～1200頃 チチェン=イツツァが中心(トルテカ族)	(アステカ族) 都: テノチティトラン	(ケチュア族(インカ族)) 都: クスコ
特色	●マヤ文字(一部解読) ●階段ピラミッド型の神殿 ●二十進法による記数法	●アステカ文字 ●軍事的神権政治	●文字なし(キープが伝達手段) ●宿駅や飛脚制度・道路網発達
滅亡	16世紀 滅亡(スペイン人の征服)	1521 コルテスに滅ぼされる(最後の王モンテスマ)	1533 ピサロに滅ぼされる
共通点	●とうもろこし・じゃがいもを栽培する集約農業(灌漑農業) ●リヤマ・アルパカなどの小型家畜を飼養。牛・馬・ラクダなどの大型家畜はいない ●太陽信仰を中心とする神権政治 ●高度な石造技術(神殿など) ●金・銀・青銅器は利用されたが、鉄器は用いられない ●車馬はない		



マヤ文明の文字 暦の月・日の名前, 人名, できごとを表すのに用いられる。大多数は表音文字で約750の符号が認められる。現在解読中。



アステカ文明 人身供儀

アステカ族は太陽を神格化した。そして神が十分な力を保ちアステカ族を守ってくれるためには、人間のいけにえが必要であると考えた。彼らは毎日、多くの奴隷や戦争で捕らえた敵兵の心臓と血を神に捧げた。

コンキスタドレス(征服者)

文明の破壊者たち

16世紀、インディアスと総称される「新大陸」を征服(コンキスタ)したスペイン人達。コロンブスが最初でコルテス・ピサロがその典型。黄金の獲得・領土の拡大・インディオのキリスト教化をめざしたが、征服完了後、スペイン国王によって権利を剥奪された。



ピサロ(1470頃～1541)

30頭ほどの馬と180人の歩兵を率い、インカ皇帝アタワルパを処刑した。

コルテス(1485～1547)

スペインの下級貴族コルテスは、わずか400人の部下を率いてアステカ国王モンテスマを捕らえた。

太陽の祭り(ペルーのクスコ)

インカ皇帝は太陽の子孫とされ、冬至の日には太陽の力を回復させるため祭りが行われた。

1930年代の伝統文化 見直しで再開された



マチュ=ピチュの遺跡(インカ文明) ペルー南部、クスコ地方の標高2500mの急峻な山上にある石造りの都市遺跡。インカ文明に特有の神殿・宮殿・住居域がみられる。

インカ文明

キープ(結繩) インカ帝国では文字はなく、キープの色によって内容を、紐の結び目によって数量を表した。



古代インカの石積み(クスコ市内)

インカの石積み

インカ族は建築技術に優れた才能を発揮し、巨石を使って角をそろえた美しい壁を作った。

